

水 トラスト ニュース

Mar . 2005 vol . 12

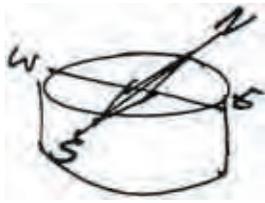
contents

マップづくりに参加しませんか	… 1
「岐阜にござったゴミの山」	… 3
水源の森・みたけから	… 6
おすすめの本	… 7

マップづくり

に参加しませんか

今年には木曾川流域マップをつくりまします。
みなさんの知恵と情報をかしてください。



●マップとは？

文字通り「地図」ですが、単なる道路地図や地形図ではなく、木曾川流域のどこで、だれが、なにをしているのか？を地図上にあらわすと同時にその具体的な内容をわかりやすく写真や文章で説明します。

マップについては筑後川流域ですでに10年前から「筑後川環境マップ」がつくられています。いわばその「木曾川版」を作ろうというわけです。

●木曾川マップにはなにを盛り込むか？

私たちは500万人の水トラストをつうじて上流域と下流域のひとびとのコミュニケーションをはかってきました。それはごみの処分場をめぐる問題が契機ではありませんが、もうすこし、広く眺めると、上流域と下流域が問題点を共有し、お互いが助けあうなかで地域の振興をはかろうとしてきたのではなかったでしょうか。

言葉をかえると「上流と下流の共生」といってもいいかもしれません。私たちは「共生」をひとつのキーワードにしてマップづ



くりをすすめたいと思っています。

もう少し、具体的にいえば私たちの仲間の由利さんが始められた「大豆畑トラスト」おもいうかべてください。これは、畑をもたない下流域の人が上流域の人にたのんで大豆などをつくってもらいできた無農薬の大豆などをまた下流に送ってもらうことで「共生」が具体化されています。

●マップはだれがしつづけるの？

マップをつくるのはこの水トラストに参加しているすべての人、そして木曽川流域

で流域の上流あるいは下流のために何かをしている人、また何かをしようと考えている人に参加してもらいたい、と考えています。そして、水トラストに参加している皆さんはみずからそのつくり手になると同時にまわりの人にも是非呼びかけをしてもらいたいと思います。

これから半年くらいかけて情報あつめをしたいと思っています。そのあと執筆のお願いやインタビューをしたいとおもいますが、とりあえず部分的にできたものをトラストニュースに掲載し、こんなことならやってみよう、という二段構えも考えています。一年後になんとか形になればいいなと思っています。

(安藤直彦 あんどう なおひこ 事務局)

さしあたりは情報集めをお願いします。文章が苦手な人は写真でも、スケッチでも結構ですし、こんな人がいるよ、こんなグループがあるよという情報でも結構です。事務局までご連絡ください。

●マップはいついついできるの？



11月21日、岐阜大学図

書館講堂で開催された廃棄物処分場問題全国交流集會に参加した。全国不法投棄現場での住民運動の経験进行交流するために廃棄物処分場問題全国ネットワーク（事務局長は大橋光雄さん）が開催する年に1度の大会である。大橋さんは御嵩産廃問題でもいち早く東京からやってきてくれて、問題の全国区化に一役買っている。岐阜県史から御嵩事件を抹殺する事件が発生した時も岐阜県庁に抗議するためにかけてくれた人でもある。今回は岐阜市で発生した善商事件をめぐって地元の運動を励まし、全国の運動の糧とするために岐阜

で開催されたらしい。

受け付けには、高富町の寺町さん夫妻、大垣の近藤ゆり子さんなど見知った顔が並んでいた。渡された資料の分厚さにびっくり、B4で約120ページもの大作である。岐阜県は広いために県内各地の運動の連絡があまり良くないとされており、この集會の準備も大丈夫であろうかと心配していたが、少なくとも資料のボリュームを見る限りは杞憂であるように思われた。大きな会場に入ると、7〜8割ほどの入り、少なくとも300人は入っているようで再び安心した。午前中はシンポジウムということだったが要す

「岐阜にござったゴミの山」

大沼 淳一

第11回廃棄物処分場問題全国交流集會 in ぎふ

るにパネルディスカッション。通産省・地質調査所で活躍されていた坂巻幸雄さんからは敦賀市にある民間処分場キンキクリンセンターによる不法処分の調査を電気伝導度などの簡易な測定で追跡した報告があった。投棄された廃棄物量が

100万立米を超える日本最大の不法投棄の可能性があるにもかかわらず福井県が業者をかばっているとのこと。北陸本線のトンネルから浸み出してきた汚水に保線区員が気が付いたのが最初だったというのは、多治見の愛岐処分場（名古屋市の一般廃棄物）の浸出水が中央線のトンネルに浸み出しているのではないかというアイデアが浮かんだ事が有っただけに興味深かった。

中村吾郎さんからは報道写真家らしく岩塩層に掘られたドイツの遮断型処分場の写真などを示しながら、日本の廃棄物処理法が穴だらけな事、廃棄物はそれを製造販売したものの所有物であつて、付加価値が消費された後は所有権だけが残るから、製造者に処理責任があるとするドイツの廃棄物処理法の考え方が紹介された。御嵩町の柳川町長からは、産廃問題を支配する暴力とお金の論理について、自身の体験や全国産廃処分場問題自治体連絡会の会長としての情報や経験をもとに話があつた。

弁護士村田正人さんの話はいつ聞いても感心してしまう。かならず新しい役に立つ話を準備して講演にのぞんでいることがわかるからだ。今回は、不法投棄事件があつたとを断たないのは行政が監督権限を独占している

2004年 産廃不法投棄問題全国シンポジウム

11・20 (土) 現地見学会 1,000円
 宿泊・懇親会 10,000円
 懇親会のみ 5,000円

現地視察と交流会

12:30 JR岐阜駅南口集合 (12:45出発)
 岐阜市の不法投棄現場～西濃地域現場視察
 17:30～ 交流懇親会(長良川河畔「多賀」) 056-231-0167)

11・21 (日) 資料代：一般 1,500円
 大学生 1,000円

岐阜大学図書館講堂 (岐阜市朝戸一)

9:30 開会
 9:45 報告：現地・岐阜から
 10:05 シンポジウム
 「岐阜にごさったゴミの山」
 ～環境汚染は？責任はどこに？～
 12:30～13:00 昼食休憩
 13:00 パネルディスカッション
 「私たちはどうしたらよいか」
 ～激論！5大不法投棄現場から～
 15:30 閉会
 ※シンポジウムの録ふれなど詳細は裏面に

日本まんなかゴミ列島 岐阜の山はゴミ山か

環境汚染は？
 責任はどこに？



産廃不法投棄をめぐる話し合う全国集会を開きます。
 最悪規模・岐阜市のケースは、なぜここまで見逃されてきたのか？
 私たちに何ができるか、考えましょう。

※裏面もご覧ください

※要予約～11/19日まで～

・11/20 現地見学会 1,000円
 宿泊・懇親会 10,000円
 懇親会のみ 5,000円
 ・11/21 弁当 600円

振込先：郵便振替 00120-1-565357
 口座名 「全国交流集会」

第11回 廃棄物処分場問題全国交流集会 in ぎふ

主催 廃棄物処分場問題全国ネットワーク

共催 「産廃不法投棄問題全国シンポジウム」実行委員会

事務局長・大橋光雄

代表世話人：大野博、松井英介

《問い合わせ先：TEL. 03-3697-0006 FAX. 03-3693-1853》

《問い合わせ先：〒502-0017 岐阜市長良雄雄 878-16 Fax. 056-296-3003(松井)》

ところに問題の根源がある、廃棄物処理法19条を

改正し住民による立入り調査権を明記するべきであるという提案がなされた。例えば市長村長によ

る立入り調査の際に利害関係者としての住民の同行立入りを明文化する、

あるいは独自の立ち入り権を明記するなどとても具体的な提案であった。

また、キンキクリーンセンターや善商のようなケースで取り返しのつかない事態になる前に、行政が措置命令を出すように住民側から裁判で訴えるというやり方が今後は多用されるべきである事、その際は大量の住民の参加による大訴訟団を組んで行政を圧倒していく必要があるということも話

された。

お昼休みは図書館の外に出て、岡本隆子さん(御嵩町議)、田中保さんなど御嵩町からみえた十数人と一緒にお弁当を食べた。温かい小春日和でノンビリした楽しい時間となった。

午後は、大橋さんの基調講演のあとパネルディスカッション、日本最大の不法投棄事件といわれる青森岩手県境の田子町(たつこちょう)から沢口さん、敦賀のキンキクリーンセンター問題で今大地さん(敦賀市議)、産廃富士が出来た奈良県西吉野村から曾和さん、豊島から石井さん(香川県議)、地元岐阜から松井さん、千葉県職員で思いきった産廃Gメンとし

ての体験を本にして出版して話題になった石渡正佳さん、コーディネーターは読売新聞の名物記者を定年退職した高橋恒美さんであった。

時間の割にパネラーが多すぎて、この手のパネルディスカッションがいつも陥る消化不良になってしまったのがちよつと残念であったが、石渡さんのやや強引で居直った現実主義的発言「行政というものは本来市民の意見を聞くようには来ていない」などが他のパネラーを刺激してちよつとした盛りあがりがあったのが救いとなった。石渡氏は、産廃不法投棄問題は経済問題である事、ヤクザと政治家との縁が切れないとい

う点で建設業界とよく似ていること、このことを踏まえた対策を立てていかないと解決が見えてこないと述べた。また、年間10兆円産業を健全育成していくために、業者をいじめるだけでは悪徳業者だけが生き残っていくだけであり、全国で健全な1000社くらいが年間1000立米、年間100億円の処理をするような体制が良いのではないかと述べた。さらに千葉県での不法投棄事例に付いては、一部は公

共処分場で処理、残りは県産廃業協会の幹事社にボランティア処理を依頼したことも報告された。また、千葉県では県職員200名、市町村職員で立入り許可証を持つもの

400名、県警の環境犯罪課、民間ガードマンによる巡回という手厚い監視体制を組んでいるがそれでも年間350件もの不法投棄事件が発生しているという実態が、単に規制や監視だけで廃棄物問題が解決しないことを示しているとも述べた。

年に1度の交流集会、一日中聞いていると解決の方向が見えてこない産廃問題の山の大きさにため息が出てしまう。しかしこうした積み重ねが廃棄物処理法の大改正を12年間で5回もやらせた力の源となっているのである。岐阜の皆さん、本当にご苦労様でした。(おおぬまじゅんいち自治体職員)



水源の森・みたけから





木曾川文化研究会

「木曾川は語る―川と人の関係史」(風媒社・2400円)

大学教員、主婦、町役場職員、小学校教諭など7人の共著である。「木曾」という名前の由来から始まって、木曾氏の台頭から明治までの木曾谷の歴史、渡船場や橋の歴史、電力開発史などがていねいに分担執筆されている。

「川狩りの終焉」の章では、木曾川でかつて行われていた木材運搬法が詳しく解説されていて興味深い。木曾山で伐採され

た木は「山落し」で谷川の岸辺に集められ、いったん乾燥。乾燥して浮力がついたところで「堰出し」という手法で一気に入谷を流下させ、やがて木曾川本流に到達する。要するに谷を堰きとめて落差をつけ、堰を切つて一種の土石流のように材木を下流に流すやり方である。本流に着いた材木は秋から冬にかけての水量の少ない時期に1本ず



の本

つ「管流し」
されて八百
津の錦織に
あった綱場
に到達。こ
こではじめ

て1枚の筏に組まれて川を下るのであるが、このまま海にまで直接に行くわけではない。犬山や鶴沼で2枚に連結され、さらに流れが緩やかになる笠松の円城寺で6〜8枚に連結された。途中で筏川に入ってから海に出て白鳥や桑名へと回送されたのだそうである。

「電力開発と木曾川の水資源」の章では、電力王・福沢桃介と島崎広助の闘いや、ダム建設の邪魔であった「川狩り」すなわち木材運搬が鉄道輸送に切り替えられていった経緯などが解説されているが、反権力の視点がないために評者にはやや物足りない記述となっている。

他に、木曾川土砂災害小史ではデレーケの足跡が紹介されていたり、「川が育む祭りと信仰」では、津島天王祭りの事などが紹介されていてなかなか楽し

い。塩の道に関連した記述がなかったり、流域圏という視点が感じられないという不満はあるが、木曾川を知るための参考書としてはなかなかの一冊となっている。

(糸)



岩澤信夫
「不耕起でよみがえる」(創森社・2200円)

福岡正信氏の提唱する畑作における不耕起農法は知る人も多い。実践者も全国にたくさんいる。しかし、水田での不耕

起農法はまだめずらしい。著者である岩澤さんは千葉県在住、1983年頃から不耕起移植栽培の実験に着手。1985年に世の中に向けて不耕起農法を提唱。1993年、日本不耕起栽培普及会を設立した。

水田を耕さない、すなわち天り返しも代かきもしない、前年の切り株が残る水田にそのまま田植えをするのである。このために三菱農機と専用移植機の開発も行った。要するに田植え機の改良で、苗を移植するための穴を開ける仕掛けが組みこまれている。

この農法のもうひとつのポイントは冬期湛水である。普通の水田は冬期は水を抜いて乾燥させるのが常識であるが、それをあえて行わず意識的に水を張りっぱなしにするのである。このことによって水田にはサヤミ

おすすめ

ドロなどの藻類が増殖し、ミジン

コなどの原生動物がわき、イトミミズが有機物を分解して栄養塩をつくり、タニシなども現れる。た

くさんのクモが田圃に巣をかける。これらの生き物を食べに鳥が飛来する。福島の不耕起田では白鳥までもがやってきた。

佐渡では絶滅したトキの人工繁殖が行われているが、そのトキをやがては野に放つ日のために不耕起水田が広がり始めている。トキが安心して野生に還る日のために農薬で汚染していない、タニシなどのエサが豊富

にある水田を準備して、トキと人間との共生を図る計画なのである。

この本の最終章で岩澤さんは次のように述べている。「日本のように：小さな島国に1億2千万もの人が住んでいます。飢餓の世紀に突入した21世紀、日本の田んぼは私達の生命線なのです。日本で自給率100%を達成出来る穀物はコメだけで、そのコメが日本人の主食なのです。：(中略)：化石燃料は使い切るまで約50年といわれ、どこかの国の井戸がかれると産油国は輸出を渋り、エネルギー消費文明は崩れてしまいます。：その時代に日本の農業がどうなるかがさらに問題なのです。農業もこの50年ほどでエネルギー消費型に変身しているのです。：トラクターやコンバイン：コメの乾燥：農薬やプ

ラスチック製の農業資材も石油から製品になり：石油がないとコメが出来ない事になります。

：私達はこのように大変きわどい状況の中で楽な生活と飽食をむさぼっているのです。：日本の農業はいずれ来る日のためにエネルギー消費型農業から脱却する必要があります。今までも観念論はありましたが具体的な手法、技術が確立されていませんでした。ですから私達は2500年以上の時間をかけて田んぼに順化してきた生き物達の生きる力と働きでイネ作りをしようと考えているのです。：」

(糸)



●事務局だより

◇事務局定例会のお知らせ

昨秋より不定期開催だった事務局会議を月例化しました。毎月第4火曜日に働く人の家で19時30分より開催です。

水トラスト発足当初はシンポジウムや森開きイベント主催、NPO法人化など精力的な取り組みを実現してきましたが、このところ様々出されるアイデアを具体化するパワーが低下しがちでした。森の作業は月例化し継続されてきましたのでこれにならない事務局会議も月例化し、パワーアップをはかりたいと考えています。

◇流域マップ掲載情報を募集しています

心当たりのあるところから取材に出かけ、次号より流域情報

を掲載します。ホームページにも掲載していく予定です。

情報収集は基本的に事務局メンバーの取材により行ないます。流域のユニークな話題がありましたら取材に出向きますので、ぜひ事務局までお知らせください。

◇小中学生の森づくりの体験学習事業を立ち上げます

前号須田さんのレポートにあるような小中学生を対象にした体験学習事業を立ち上げます。須田さんの取り組みへの参与や、下流域小中学生に御嵩で森づくり体験をしてもらうなど次代を担う小中学生に水源林の重要性を知ってもらおう。この事業をきっかけに水トラストの運動の広がりをつくってほしいと考えています。

これについては「河川環境管

理財団」の河川整備基金助成事業に「小学生の山遊びから始まる木曽川上流下流域交流」の名で申請しました。当選すればまとまった助成金を自然体験プログラムのために使うことができようになります。

◇水源の森・みたけに來ませんか

定例作業日：毎月第2土曜日

午前10時

御嵩町中公民館集合
名鉄広見線御嵩口駅

東徒歩数分

小雨決行

持ち物

…長袖、長スボン、

帽子、軍手、タオル、

山歩きのできる靴、

昼食、水筒

※森には飲料水、トイレがありません。

連絡先

…中村 0574
(64) 0216

大沼 052

(779) 4291

水トラストニュース 12号 2005年3月発行

特定非営利活動法人NPO

みたけ・500万人の木曽川水トラスト

〒456-0034

名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL&FAX 052-682-4737

郵便振替 00800-9-64810

URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>